

議員派遣結果報告書

1	名 称	関係人口関係者向け勉強会（セミナー） 関係人口とともにつくる『にぎやかな過疎』
2	場 所	大栄農村環境改善センター 2階 大会議室
3	期 間	令和7年12月16日（火） 1日間
4	内容・成果	<p>講師 明治大学農学部教授 小田切徳美 氏</p> <p>内容</p> <p>関係人口とは、移住・定住に至らなくとも、地域の継続的に 関わり、役割を持って関与する人々を指すものであり、「にぎ やかな過疎」という印象的な言葉で、今後の地域像が示され た。</p> <p>この度の研修で強く感じたのは、これまで当然視してきた 「人口を増やすこと＝地域を守ること」という考え方そのも のが、すでに転換期を迎えているという点である。人口減少 は避けられない現実であり、その中で何を目指すのかが問わ れている。</p> <p>関係人口は、人数として把握しにくく、関わり方も多様で ある。関心から始まる人もいれば、仕事や活動をきっかけに 関わる人、長期滞在を繰り返す中で地域との距離を縮めてい く人もいる。こうした人の流れを「動態」として捉える必要が あるという指摘は、非常に納得感があった。</p> <p>また、関係人口が地域にもたらす価値は、必ずしも経済効 果に限らず、外部の視点が入ることによって地域に変化が生まれ、 住民の意識が前向きになること自体が大きな価値であるとい う点も印象に残った。</p> <p>成果</p> <p>私が最も心に残ったのは、「人口は減っても、人材は増やせ る」という考え方である。これまでは、人口減少をどう止める かということに、重きを置きがちであったが、関係人口とい う視点に立つと、考えを変える必要があると感じた。</p>

		<p>「にぎやかな過疎」という言葉は、一見すると矛盾した表現であるが、定住人口の数ではなく、関わる人の多様性や密度によって地域の活力を測るという考え方は、人口規模の小さな自治体にとって現実的かつ前向きな視点であると受け止めた。</p> <p>「計画から入らない」「仕組みありきにしない」「実践の結果として仕組みができる」という行政プロセスの考え方は、議会におけるチェックや提案の在り方にも通じるものがある。計画書の整合性だけで評価をするのではなく、実際にどのような実践が行われ、どのような関係性が生まれているのかを見る視点を持ちたいと感じた。</p>
--	--	---

提出期限 令和8年1月9日（金）まで